

- 問1 北海道の農業では、1経営体あたりの経営耕地面積が約30.6ヘクタールと全国平均の約14倍に達する大規模な経営が行われています。一方で、自営農業従事者に占める65歳以上の割合が増加し、総農家数が減少しているという課題があります。このような背景から導入が進められている、ロボット技術やICTを活用した「スマート農業」の主な目的として最も適切な説明はどれですか。（2021年 宮城県公立入試 類似）
1. 労働力不足や高齢化に対応し、作業の負担軽減や効率化を図ること
 2. 化学肥料の使用を一切禁止し、すべての農作業を人力に切り替えること
 3. 手作業による伝統的な農法を維持し、農産物の希少価値を高めること
 4. 経営面積を縮小することで、小規模な家族経営農家を保護すること
- 問2 北海道の根釧台地など、夏の気温が低く稲作に適さない地域で見られる、広大な土地を利用して乳牛を飼育し、生乳やバターなどを生産する農業形態を何といいますか。（2019年 岡山県公立入試 類似）
1. 酪農
 2. 果樹栽培
 3. 稲作単一経営
 4. 施設園芸
- 問3 北海道を訪れる外国人観光客の動向について、国・地域別の割合では台湾・韓国・中国が全体の60%以上を占めています。これらの国々が含まれる地域名称と、来道者の約90%が利用している交通手段の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2021年 茨城県公立入試 類似）
1. 北米 / 船舶
 2. 東アジア / 鉄道（新幹線）
 3. 東アジア / 航空機
 4. 東南アジア / 航空機
- 問4 日本の農業に関する統計データにおいて、北海道が他の地方と比較して圧倒的に高い数値を示している二つの項目の組み合わせとして、最も適切なものはどれですか。（2017年 福岡県公立入試 類似）
1. 農業従事者一人あたりの農業使用量と、一人あたりのビニールハウスの面積
 2. 単位面積あたりの農業従事者数と、一人あたりの肥料使用量
 3. 総農家数に占める兼業農家の割合と、一人あたりの労働時間
 4. 農業従事者一人あたりの耕地面積と、一人あたりのトラクター保有台数
- 問5 1977年から2017年にかけての北海道における稲作の動向について、作付面積と総収穫量はともに減少していますが、1ヘクタールあたりの収穫量は増加傾向にあります。このように、一定の土地面積から得られる収穫量が増える背景として、最も適切な説明はどれですか。（2019年 岡山県公立入試 類似）
1. 地球温暖化の影響のみによって、北海道全域が稲作に最適な亜熱帯気候に変化したため
 2. 生産技術の向上や寒さに強い品種改良が進み、土地あたりの生産性が高まったため
 3. 政府の減反政策により、小規模な農家がすべて廃業して大規模農場に集約されたため
 4. 化学肥料の使用を一切やめ、伝統的な手作業による農法に回帰したため
- 問6 北海道の知床半島を含む東部地域では、夏季に「濃霧」が発生し、視界が悪くなったり気温が上がりにくくなったりすることがあります。この霧が発生する仕組みについて、海面を流れる潮の流れ（海流）と季節風の関係を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2026年 島根県公立入試 類似）
1. オホーツク海から吹き込む冷たい風が、陸地の熱によって上昇気流となり、雲を作ることによって発生する。
 2. 太平洋から吹き込む湿った季節風が、寒流である親潮（千島海流）によって冷やされることで発生する。
 3. 太平洋から吹き込む乾いた季節風が、暖流である黒潮（日本海流）によって温められることで発生する。
 4. 日本海から吹き込む湿った季節風が、暖流である対馬海流によって冷やされることで発生する。
- 問7 北海道の釧路周辺における夏の気候について、統計資料では「8月の平均気温が約18度と低く、日照時間も短い」という特徴が示されることがあります。このような気候になる理由として、最も適切な説明はどれですか。（2025年 群馬県公立入試 類似）
1. 寒流である千島海流（親潮）によって冷やされた空気が濃霧となり、日射を遮るため。
 2. オホーツク海高気圧から吹き出す冷たい風「やませ」が、日本海側に低温をもたらすため。
 3. 暖流である日本海流（黒潮）が湿った空気を運び、大量の降雨をもたらすため。
 4. 冬の季節風が山脈を越えて吹き下ろし、フェーン現象が発生して乾燥するため。
- 問8 北海道のオホーツク海沿岸で見られる流氷について、その発生と移動の背景を説明した文として最も適切なものはどれですか。（2026年 愛知県公立入試 類似）
1. シベリアからの強い寒気によって凍った海水が、風や海流の影響を受けて南下し、北海道の沿岸に到達する。
 2. アラスカ沿岸で発達した流氷が、偏西風の影響を受けて東から西へと移動し、北海道の知床半島周辺に漂着する。
 3. 日本海側の対馬海流が強い寒気で冷やされることで氷が発生し、北西の季節風によって北海道の北部に押し寄せられる。
 4. 北極海から流れ出した巨大な氷の塊が、親潮（千島海流）に乗って南下し、北海道の太平洋側に接岸する。
- 問9 北海道の中央南部に位置し、石狩低地帯の東側から南の襟裳岬方面へと南北に連なる険しい山脈の名称として、最も適切なものを選びなさい。（2024年 岡山県公立入試 類似）
1. 奥羽山脈
 2. 飛騨山脈
 3. 日高山脈
 4. 赤石山脈
- 問10 北海道の生乳の利用状況について、栃木県などの都市圏に近い地域と比較した統計によると、北海道では生産された生乳の8割以上がバターやチーズなどの原料となる「加工用」に回されています。このように、北海道で加工用の割合が極めて高い理由として、最も適切な説明はどれですか。（2016年 秋田県公立入試 類似）
1. 冬の期間が長く気温が低いため、液体としての輸送が困難だから
 2. 道内の人口が少ないため、飲料としての需要がほとんど存在しないから
 3. 大消費地から遠いため、日持ちのする乳製品に加工して出荷しているから
 4. 地域に根ざした地場産業として、伝統的な発酵食品の製造が推奨されているから
- 問11 北海道の中西部を流れる石狩川の下流域には、かつて大規模な泥炭地（湿地帯）が広がっていましたが、土地改良が進んだことで現在は日本有数の稲作地帯となっています。石狩川の河口が面している海域と、その流域に広がる平野の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2019年 岡山県公立入試 類似）
1. 太平洋と根釧台地
 2. 日本海と石狩平野
 3. 太平洋と十勝平野
 4. オホーツク海と北見盆地
- 問12 北海道における外国人宿泊客数の月別統計を見ると、1月から3月にかけての時期に数値が大きく上昇するという特徴があります。この時期に観光客が多く訪れる理由として、最も適切な説明はどれですか。（2021年 茨城県公立入試 類似）
1. 秋の紅葉シーズンに合わせ、新幹線を利用して広大な農地の収穫風景を見学に来るため。
 2. 梅雨がなく、ラベンダーなどの花々が満開になる夏の涼しい気候を避暑目的で好むため。
 3. 本州よりも早く開花するサクラの鑑賞や、春の大型連休を利用した旅行者が増えるため。
 4. パウダースノーと呼ばれる良質な雪でのスキーや、雪まつりなどの行事を目的に訪れるため。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 労働力不足や高齢化に対応し、作業の負担軽減や効率化を図ること	北海道の農業は一戸あたりの経営面積が非常に大きいという特徴がありますが、農業従事者の高齢化や減少により、人手不足が深刻な課題となっています。スマート農業は、自動運転トラクターやドローンなどの先端技術を活用することで、大規模な農地での作業を少ない人数で効率よく行い、身体的な負担を減らすために導入されています。
問2	答え 1 酪農	北海道東部の根釧台地では、夏でも気温が上がりにくい冷涼な気候を活かして、広大な土地で乳牛を育てる酪農が盛んに行われています。ここでは、大型機械を導入した大規模経営が行われており、日本全体の生乳生産において極めて重要な役割を果たしています。
問3	答え 3 東アジア / 航空機	北海道を訪れる外国人観光客は、地理的に近い台湾、韓国、中国といった東アジアの国・地域からの人々が中心となっています。また、北海道は島国である日本の中でも北部に位置し、海外との往来には移動時間の短い航空機が主に利用されており、その割合は約9割に達しています。
問4	答え 4 農業従事者一人あたりの耕地面積と、一人あたりのトラクター保有台数	北海道は明治時代以降の開拓の歴史から、農家一戸あたりの経営規模が他の都府県に比べて非常に大きいという特徴があります。広大な農地を少人数で効率よく耕作するために、トラクターなどの大型機械を積極的に導入した結果、一人あたりの耕地面積およびトラクター保有台数の両項目において、全国平均を大きく上回る統計値を示しています。
問5	答え 2 生産技術の向上や寒さに強い品種改良が進み、土地あたりの生産性が高まったため。	北海道の稲作は、かつては寒冷地ゆえの不作に悩まされてきましたが、農業機械の導入などの生産技術の進歩や、「ゆめぴりか」や「ななつぼし」といった耐冷性に優れた品種改良の努力により、単位面積あたりの収穫量（土地生産性）を向上させてきました。米の消費量減少に伴う減反政策などで作付面積や総収穫量自体は減っていますが、技術革新によって効率的な生産が可能になっています。
問6	答え 2 太平洋から吹き込む湿った季節風が、寒流である親潮（千島海流）によって冷やされることで発生する。	夏季の北海道東部では、南東の太平洋側から湿った季節風が吹き込みます。この風が、千島列島から南下してくる非常に水温の低い寒流である「親潮」の上を通る際、空気の温度が急激に下げられます。これによって空気中に含まれていた水蒸気が凝結して細かい水滴となり、濃い霧が発生します。この仕組みは、暖かい空気が冷たい海面に触れることで生じるため「移流霧」と呼ばれ、現地の農業や交通に影響を与えます。
問7	答え 1 寒流である千島海流（親潮）によって冷やされた空気が濃霧となり、日射を遮るため。	北海道の太平洋沿岸には寒流の千島海流（親潮）が流れています。夏、この冷たい海面上に南からの暖かく湿った空気が流れ込むと、空気が冷やされて大規模な濃霧が発生します。この霧がカーテンのような役割をして太陽の光を遮るため、沿岸部では日照時間が極端に短くなり、気温が上がらない「夏でも涼しい」気候が形成されます。
問8	答え 1 シベリアからの強い寒気によって凍った海水が、風や海流の影響を受けて南下し、北海道の沿岸に到達する。	流水の形成には、シベリア大陸から吹き付ける非常に冷たい空気が不可欠です。この寒気によってオホーツク海の塩分濃度が低い表面層が凍り、それが北西の季節風や海流によって南へ運ばれることで、北海道の北東沿岸にたどり着くという仕組みになっています。
問9	答え 3 日高山脈	北海道の南部に位置するこの山脈は、その陰しさから地域の交通や気候を分ける地理的境界線として機能しています。選択肢にある飛騨山脈や赤石山脈は中部地方（日本アルプス）に位置し、奥羽山脈は東北地方の中央を南北に走る山脈であるため、北海道の地形としては日高山脈が正解となります。
問10	答え 3 大消費地から遠いため、日持ちのする乳製品に加工して出荷しているから	生乳は鮮度が重要で傷みやすいため、大消費地である東京圏などに近い栃木県のような産地では、鮮度が求められる「飲用」としての出荷が中心となります（約99%）。一方で、北海道は広大な土地を活かした酪農が盛んですが、主要な消費地までの距離が遠く輸送に時間がかかるため、バターやチーズといった保存性の高い「乳製品」に加工することで、全国的な流通を可能にしています。
問11	答え 2 日本海と石狩平野	石狩川は、大雪山系に源を発し、北海道中央部を北西へと流れ、日本海に注ぐ一級河川です。その下流域には石狩平野が広がっています。かつては水はけの悪い泥炭地が広がり、農作物の栽培には不向きな土地でしたが、大規模な排水事業や客土（他の場所から良質な土を運ぶこと）などの土地改良が行われた結果、現在では道内最大の稲作地帯となっています。
問12	答え 4 パウダースノーと呼ばれる良質な雪でのスキーや、雪まつりなどの行事を目的に訪れるため。	北海道の観光は、かつては夏が主流でしたが、近年は東アジアなどの雪が少ない地域から、良質な雪（パウダースノー）を求めて冬に訪れる外国人が急増しています。1月から3月はスキーやスノーボードといったウィンタースポーツに加え、さっぽろ雪まつりなどの冬のイベントが充実しているため、宿泊客数が多くなる傾向にあります。